

海域の概要

本湖は、北海道北東部に存在し、砂嘴でオホーツク海と隔てられている汽水湖です。琵琶湖・霞ヶ浦に続いて日本で3番目に大きい湖です。湖内では、ホタテ・カキ・ノリなどの養殖が行われています。

Specification諸元

湾口幅：0 2 8 5 k m

面積：1 5 0 k m²

湾内最大水深：2 2 m

湾口最大水深：2 2 m

閉鎖度指標：4 2 9 7

備考：環境基準類型指定水域

Location範囲または位置

北海道常呂郡佐呂間町、同郡常呂町及び紋別郡湧別町。

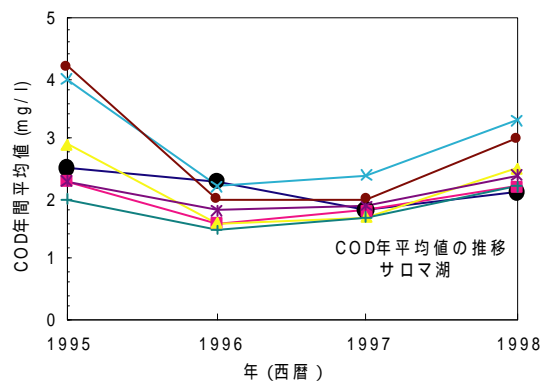


環境

サロマ湖は、湾口をオホーツク海に開いている湾で、沖合を宗谷暖流が流れています。気候は、冬季湿潤寒冷型で、夏季には海霧が発生し、冬季・春季には流水の影響を受けます。湖内には、佐呂間別川、計呂地川などが流入して、水質環境に影響を及ぼしています。

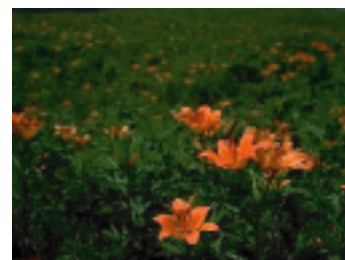
水質は閉鎖性の高い汽水湖であることを反映し、富栄養な環境にあります。

COD年平均値の推移をみると、2mg/l以上となることが多くなっています。



自然

サロマ湖は、北海道で最大、全国でも三番目に大きく、豊かな湖として知られています。サロマンブルーと呼ばれる深みのある独特の青さが印象的で、網走国定公園に指定されています。オホーツク海とは全長20kmの細長い砂州で区切られ、波打ち寄せることのない湖面は、さながら鏡面のように穏やかです。この砂州にはワッカ原生花園があり、ハマナスやセンダイハギ、エゾスカシユリなどの約300種の海浜植物群落地が見られます。また、9～10月にかけて、天然記念物に指定されているサング草がいっせいに色づき、赤い絨毯をつくりあげます。



ワッカ原生花園

湖岸には干潟が形成され、また、湖を縁取るようにアマモ場が発達しています。

サロマ湖湖畔遊歩道は、国道238号線に沿って、富富士と浪速間の片道およそ5kmの湖畔遊歩道で、様々な種類の木で構成される原生林のなかをぬうようにつくられています。ほぼ平坦な道の中には、色とりどりの野生の草花や木の実などが見られます。

文化歴史

サロマの由来は、アイヌ語の「サロ・オマ・ベツト(葦のあるところ)」、「サラ・オマ(葦のあるところの沼)」から「サロマ」となりました。明治27年、青森県東津軽郡出身の鈴木基五郎が浜佐呂間に入植し、半農半漁の営みに始まり、大正15年の定期バス、昭和11年の鉄道の開通などにより人口が急増し、昭和28年町制施行により佐呂間町となり、現在に至っています。

産業

サロマ湖では、いち早く栽培漁業への転換を図りました。なかでもホタテは高い品質とコンスタントな生産量を誇り、広く海外にも出荷されています。このほか、北海シマエビ、ウニ、カキなどの養殖も着実に伸びています。

また、日本有数の日照時間を有し、昼夜の大きな寒暖の差という大自然からの恩恵を受けて生み出される農産物は、かぼちゃ、小麦、ビート、ジャガイモ、豆類などバラエティに富み、「サロマ発」の農産物は全国各地に送られています。また、酪農家が多く、人口よりも牛の数が多くなっています。特に乳牛が主流を占めています。



ホタテ